



元気っ子

No.198 ながさわ保育園

園長

市川温予

第三保育期がスタートし、はや一ヶ月が経ちました。

子ども達は、2月8日（土）に鈴鹿市文化会館である「お遊戯会」に向けて毎日一生懸命に取り組んでいます。「楽しく、どの子も笑顔で参加してほしい、みんなで頑張っていていいお遊戯会にしたい」という大人の想いをこめ、先生達も頑張っています。

お遊戯会は、2歳児（うさぎ組）と3, 4, 5歳児が参加します。異年齢は、3, 4, 5歳児が混ざってダンスやオペレッタをします。自分でやりたいものを選び自己決定しています。

毎日、ホールでオペレッタやダンス、歌の練習をしています。いろいろな子どもの姿があり、見ていてとても楽しいです。日に日に踊りもセリフも動きもうまくなっていきます。子どもの力はほんとうに無限だと感じます。子ども達はすぐ覚え、自分の中に取り込んでいくので先生達も必死で踊ったり演じたりと頭も体もフル回転です。また、先生達が「どうしたらかっこよく踊れるかなあ？」「どうやって演じたらいい？」と子ども達に聞くと、年長児が「こうしてみたらいいと思うよ」と実際にやっている姿をみるとさすが年長児だなあと思いました。

ダンスにしてもオペレッタにしても大きい子が小さい子を助けてあげたり、支えてあげたりしている優しい姿をみると「ずっと優しい気持ちを持ち続けてほしいなあ。」といつも思います。今の年長さんが3歳、4歳児の時に大きい子に助けてもらったり、優しくしてもらったことを覚えているからこそ、小さい子を助けたり、支えたりできるのだと思います。また、子ども同士でも「〇〇ちゃんのダンス、すごく上手。」「〇〇くん、かっこいいなあ。」と褒めあったりする姿をみると、子ども同士が認めあうことは素晴らしいことだと思えました。人間関係の幅も広がり、子ども達は確実に育ち合っています。



ながさわ保育園のおゆうぎ会は、子どもを叱りつけてピシッと見せるおゆうぎ会ではありません。子どもも大人も苦手なものはあります。ダンスは苦手だけれど歌は好き・・とかセリフをいうのは苦手だけれど踊るのは好きという子もいます。いろいろな子どもの姿があってOKだと私は思います。どこかの場面自分らしさ（その子なり）が十分に発揮できればいいと思っています。2月8日（土）には、みんなが力を合わせ、ながさわ保育園らしいお遊戯会になるようにしたいと思います。